【別紙】令和４年度　とっとりSDGsアワードの審査結果

◆ファーストステップ受賞者（小中学生対象）　応募数１５７件

受賞者・受賞グループ名（学校名）	提案名	提案内容	審査での講評
○グランプリ　１団体			
スパークルバルブス （米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校）	SDGｓ×スパークルバルブス	①海岸のゴミ拾いを実施し、拾ったゴミの重さとゲームの結果で勝敗を決定するｅスポーツのトーナメント戦を開催。海洋ゴミに関するクイズも実施。 ②家庭で不要となったものを景品とする５つのゲームを企画して子ども向けの縁日を開催。 ③地域の生産者から余った食材をもらいに回り、ピザづくりを体験する「０円食堂」の実施。	ゲームの要素を取り入れて、参加者が楽しめる内容に工夫しているのが斬新。中学生サークルの結成がすばらしい。 景品や食材集め自体が啓発にもつながり、楽しめるイベント内容が良い。
○準グランプリ　１団体			
東郷小学校 SDGs プロジェクト （鳥取市立東郷小学校）	東郷小学校 SDGｓプロジェクト2022 ToGoNext100 ～ 豊かな里山を、100年先の未来へ繋ぐ～	SDGs の基礎知識や海洋ゴミについて学習した上で海岸清掃に参加し、回収したプラスチックゴミを材料にキーホルダーを制作。 回収した海洋ゴミと家庭から排出されるプラスチックゴミを用いて海の守り神「マーライオン」のオブジェを制作。	「地域の 100 年後を想像」は身近でありながらスケールの大きい取組。 学校と地域が一体となり、同じ目標に向かって段階的、計画的に取り組んでいることで、波及効果や他の地域での活動のモデルとしても発信できる。 学校、地域をあげた一体となった取組となっている。今後の広がりが期待できる。 子供たちや地域社会への啓蒙活動として評価。
○入賞　３団体、個人賞１名			
米子市立東山中学校１年３組１班 （米子市立東山中学校）	災害対応力アップ！～防災クイズをプログラミングで自作～	小学生でも楽しく防災に関する知識を学ぶことのできるよう、プログラミングでクイズを制作。	防災の知識を学ぶクイズをプログラミングで自作という点が斬新。 アンケートにより課題を特定し、市社協の実施している取組と連携することで、小学生のうちから防災意識を高められることを期待できる。
米子市立東山中学校１年４組６班 （米子市立東山中学校）	みんなで防災知識を増やそう！～防災スゴロク～	災害に備えて知識を増やすことを目的に、小さな子どもたちでも楽しみながら災害について学ぶことのできる防災スゴロクを制作。スゴロクの各マスに災害避難時の注意点を表示。	いつ起こるか分からない災害に備えて、普段からゲーム感覚で有事の対応を学習しておく事は重要。 防災意識の醸成を図ることができ、知恵を絞った努力が伺える。楽しみながらできるためとても良い。
米子市立東山中学校１年３組５班 （米子市立東山中学校）	ペットボトルモルックで地域サロンの魅力を体験！～PR 動画で発信～	誰でも手軽に「モルック（※）」を楽しめるよう、ペットボトルを活用するとともに PR 動画を制作。地域サロンで高齢者と小・中学生が「ペットボトルモルック」で交流できるよう、地域の小学校等に PR 動画を配信。 ※木の棒を投げ、倒れたピンの数を競うフィンランド発祥のスポーツ	専用の機材が必要なモルックをペットボトルで代用したのは面白い発想。 高齢者のニュースポーツとしての可能性。 高齢者と児童のつながりが全市に広がる可能性がある。
都田　千鶴（米子市立義方小学校）	街かどクリーン作戦	町内会などによる地域の清掃について、地域の学校や企業・団体の参加を促す目的で企業ロゴや団体名等が入ったオリジナルビブスを作成するアイデア。	協賛を募り、ビブスに企業名を記載するアイデアが斬新で面白い。 地域の方を巻き込んだ発想が良い。 企業、団体に参加を求めており、ビブスによる見える化がとても良い。

◆セカンドステップ受賞者（高校生～29 才以下の若者グループ対象）　応募数２７件

受賞者・受賞グループ名（学校名）	提案名	提案内容	審査での講評
○グランプリ　1 グループ			
COCON（ココン）×ふふや（鳥取大学）	COCON～ホッと出来るカフェ風の居場所を～	商店街に「みんなの居場所」としてカフェや子ども食堂の機能をもつ店舗を運営することで、子どもから高齢者まで多世代が気軽に立ち寄って交流できる空間を創出する。 児童クラブを運営する NPO 法人と連携し、運営スタッフを鳥取大学の学生ボランティアとすることで、学生のうちから経営感覚を身につけ、社会とのつながりを実感する学びの場にもなる。	まちなかに出かけ、実践していることは評価が高い。 単純に店舗を開設するのではなく、継続性を重要視して次世代に繋げていきたいというビジョンが秀逸。 町の賑わいと幅広い年齢層に対応できる取組。企画者自身の成長も期待できる。 地域の団体とコラボすることで、取組みの広がり、継続可能性が高まっている。
○準グランプリ　1 グループ			
砂丘の恵みの納品依頼（鳥取大学）	砂丘の恵みの納品依頼	賞味期限が近い食品や規格外の食品を地元企業等から集め、鳥取大学の学生に無料配布するフードバンクの役割と、学生向けに地元企業のアルバイトの情報を発信する役割をともに学生団体が担うもの。 学生への生活支援と地域における食品ロスの削減、地元企業の雇用機会創出に取り組んでいる。	SDGs の視点も多岐にわたり、地域と学生、企業と学生をつなぎ、双方に利点のある取組をマネジメントされすでに実現されている点が評価できる。 学生にある現実的な問題と SDGs を組み合わせた発想が良い。
○入賞　3 グループ			
みなみかぜ文庫（鳥取大学・広島大学等）	鳥取で働くを発信する「ＭＩＮＡｓｔｕｄｉｏ（ミナスタジオ）」	鳥取県内の高校生に向けて、「鳥取で働く人」を若者の視点から紹介する映像コンテンツ「ミナスタジオ」を制作・発信する。 地元で働く社会人をゲストに招き、学生にとって関心が高いテーマで高校生と対談する様子を配信することにより、多様な働き方を知る機会を提供し、地元就職の促進につなげる。	若年人口の流出、減少は鳥取県の喫緊の課題であり、その解決に向けての取組は重要。 人とのつながりを意識した学べる交流サイトで発想が良い。 県内就職のミスマッチという課題に着眼し、解決策の提案を評価。 学校での社会人講師による講座などは、自分の興味に合わないものも多く、興味にあわせた動画制作というのは良い発想。
放課後釣具倶楽部（青翔開智高校・中学）	鳥取田舎的未来計画～[(自然＋歴史＋技術)÷釣り]の視点から～	現代の「釣り」が自然環境を破壊していることに着目し、鳥取の自然素材から作った釣具を使い、歴史学習を通じて研究された古代の釣法で行う新たなアクティビティとしての「釣り」を確立し、環境に配慮した持続可能な釣りを普及させる。	釣具として使えるか実験まで行い、データとして残しているのは素晴らしい。 レジャーとして人気の魚釣りの道具を古代の自然素材で製作する事が環境保全に繋がるという発想がとてもユニークで面白い。 地域への愛着を感じる。
結梨（ゆいりん）（鳥取大学）	大学生による６次産業化の実践～梨葉の新たな利用法～	持続可能な農業に向けて生産者の新たな収入源を確保するため、耕作放棄地の梨の木の活用に注目し、化学農薬以外の病害虫防除手法の研究と梨葉の粉末を用いた商品開発を行う。	他に利用されない梨葉を活用して商品化し、収益性も考慮するなど現実的なプランとしての組み立てがしっかりなされている。